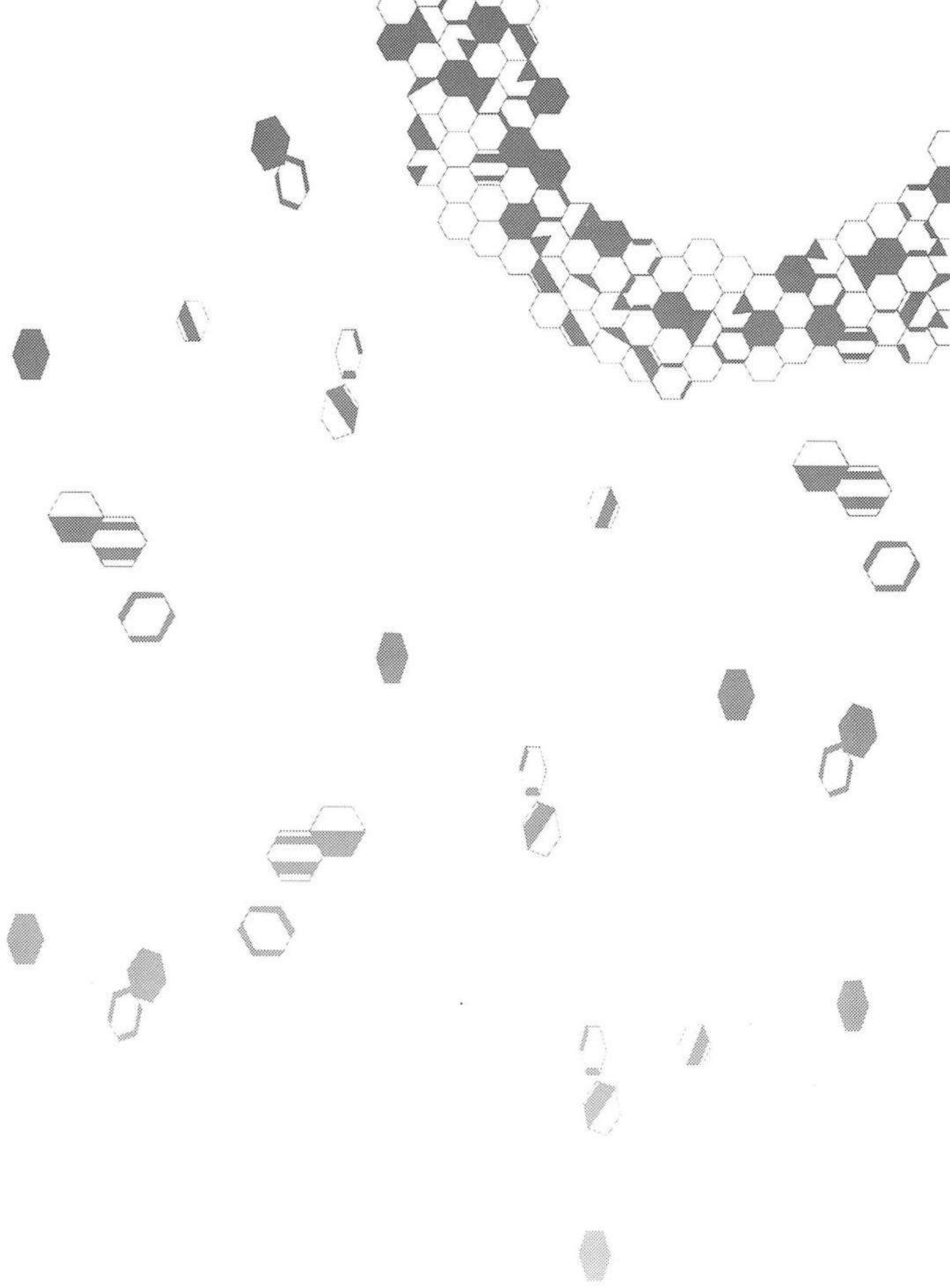


おくもりの元素  
あいもとーぷ





※この本は以前出した本を  
リメイクしたものです

もううーっ  
おたーっ  
おたーっ

ん





待って  
キヤロルちゃん！

私はっ：  
キヤロルちゃんともっと  
仲良くなりたいんだ！

はっい

離せ！

離さないよ！











…あ

ごめんね  
キヤロルちゃん  
まだ小さいし  
初めてがこんななのじゃ…

背丈で判断をするな  
数百年の時代を  
生きてきたオレだぞ

ってことは  
キヤロルちゃんにも  
大事な人が  
いるんだね!

ムッ

ぽっ

おびびりおびおび

モヤ

モヤ

あ  
あれ?

やっかん

ジュババ

ホ

お前はどうかなんだ?  
その言いぶりからして  
つがいがいるのであるう?

この時代で  
不特定の相手と  
関係を持つことは  
道理にもとる  
行為のはずだが?

うーん…

気にしないでいいよ  
遅くならなっちゃ  
ダメだよ

未来…  
ルームメイトなら  
大丈夫だよ  
心配してくれて  
ありがと

そんなもの  
しとらん





軽率に他者との  
繋がりを求めたことを  
後悔させてやる

きめん

ふわ



キヤロル  
ちや…





……!



良い顔だな  
そうして怯えて見せるが良い  
お前が望んだことだ

アッ



ま…待って

ふん



違うよ…  
身体を重ねる時はね  
まずはこうやって



良いのか?





オレと粘膜を  
触れ合わせると  
いう事は

思い出を全て  
吸いつくされると  
いうことだぞ？  
お前とて  
識っているだろう

うーん…

キヤロルちゃんはきつと  
そういうことは  
しないとと思う

何を根拠に…



うん…ほら

きつと  
大丈夫だよ！

…んっ







何故  
ギアを解く？

敵前で無防備な  
姿を晒すとは  
大した自信だな

ヘッドホンを  
している  
キヤロルちゃんの声  
が聴こえないから

なれば自身の悲鳴を  
聴かせてやる

その耳に  
刻みつける！

ふふっ…  
たっぷり可愛がって  
やろう

あつ  
キヤロルちゃ…







子供じみた下着を…  
お前には  
お似合いか

する、

あつ

キヤロルちゃんの  
いじわるう

ぷっ

ならば

もっと  
ひどいことを  
してやろうか

ひっ  
あつ

ハハツどうだ  
敵に凌辱される  
気分は

あつ…  
あつ…  
キヤロルに  
あつ



無理やりに  
身体を弄ばれて  
快感を感じるとはな

ぬ  
じい  
つがいとの関係では  
満足できなかつたか？

はあ  
そうじゃ…ないよ…  
キヤロルちゃんの手が  
あったかいからだよ

きゅ

むっ…

この期に及んでまだ  
人と人が  
繋がれるなどと

繋がってるよ  
私はキヤロルちゃんの  
温もり  
感じているよ

えっ  
戯言をつ…





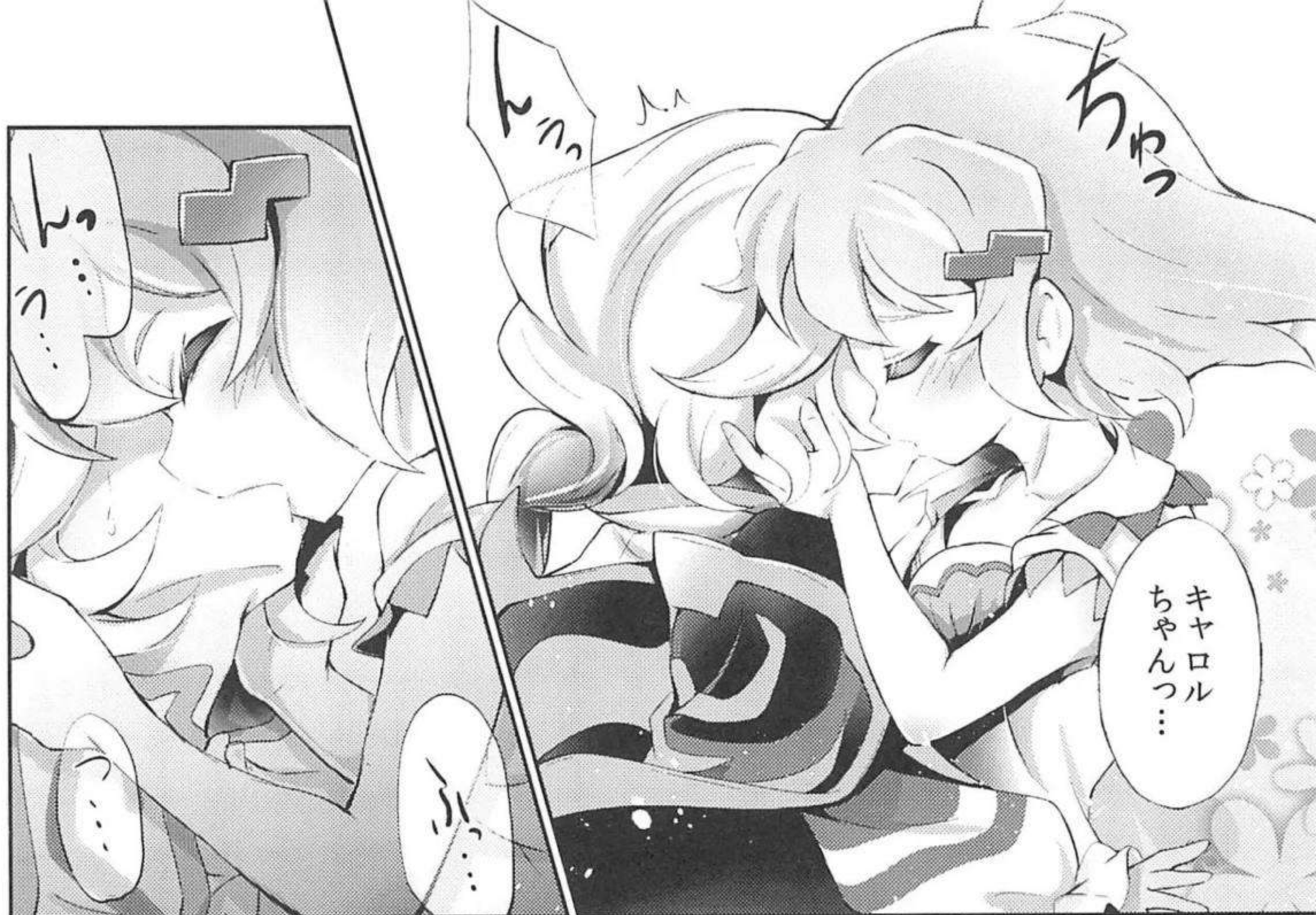
何をするッ！

キヤロルちゃんの方から来てくれたのにい

ほっ

ほっ









キヤロルちゃん  
一緒に……



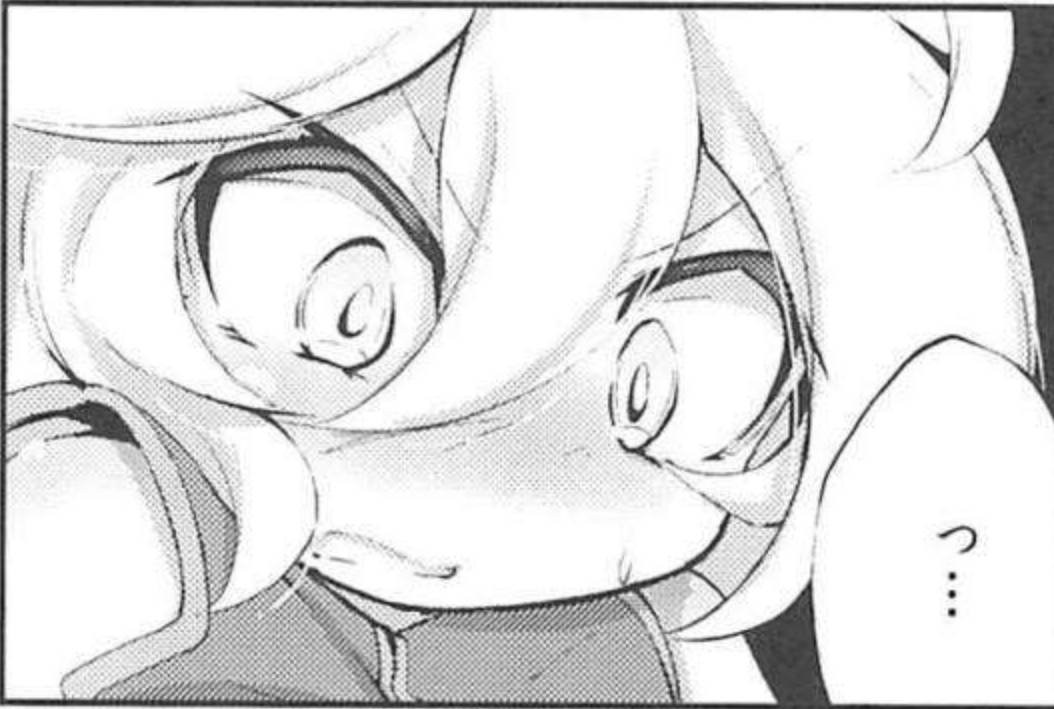




すっ

わあ、あー♡  
キヤロルちゃんと  
こんなにも近くで  
触れあえるなんてっ













それじゃあ  
私も♪

ぬぎっ

はあ？

キヤロル  
ちやくんっ

わっ

キヤロルちゃん  
あったかい

っ…  
あああ  
そうだ

この身は躯体と言え  
人間の構造と大差ない  
ホムンクルス  
人造人間…

生命活動に不可欠な  
血液も体温も  
備えている

ふうん？  
………  
お揃いだね！

貴様  
何もわかって  
いないだろ

キヤロルちゃんが  
温かいつてことは  
わかるよう





たとえキヤロルちゃんが  
世界を敵に回したって  
わたしは繋がることを  
あきらめたくない

だってこんなにも  
あったかいんだもん



もつと  
触ってもいいかな？

とうに  
そのつもりだろうに  
今更否と言って  
聞き入れるのか？



っ…  
なんのつもりだ？  
オレへの当てつけの  
つもりか？

うん？



ちゅっ



それじゃあ…





キヤロルちゃん  
脱いでも  
かわいいねっ

はわん♡

っ...うんわん



っ...



こうしたら  
キヤロルちゃんを  
もっと感じる事ができるよ

私のことも  
もっと感じて  
ほしいな



触れられる度…  
身体に伝わる  
違和感がある

この正体は  
いったい何だ？  
オレが識りえない感覚…



これは…  
体温…？

肉体に備わる  
発熱の機能

だがそれ以上に  
懐かしさすら  
感じる…  
柔さ…

他人が身体に  
触れる程度のこと  
何度も経験がある  
なのにこの違和感は…



この音は…

心音…  
これもまた  
歌女の紡ぐ歌  
だとも

キヤロル  
ちゃん





大丈夫だよ

私に任せ  
といてっ

続けるね

あっ…

ちゅっ

ちゅっ











お前：  
年端も行かぬ  
子供のくせして  
その慣れた様は  
なんだ：

そうかなあ  
えへへ：

あえて  
言うなら：

愛

かな

※

ほめたい

ほめたい



どうかな  
もつと気持ちよく  
なつてほしいな

んむ

んむ

んむ

んむ

んむ

んむ





ほら

あつたか…い…

あ…  
う…あ…



ほらね…  
キヤロルちゃんを  
こんなにも近くに  
感じられるよ



きゃん









お疲れさま

あゅっ

は

は



ほらね  
身体が繋がれば  
心だって繋がれるんだよ

私たちもう  
なかよしになれたよね



いや…  
オレはそこまで  
繋がった覚えは  
ないが

あれえ〜〜〜



じゃあもう一回っ  
きつと心は繋がるよ!

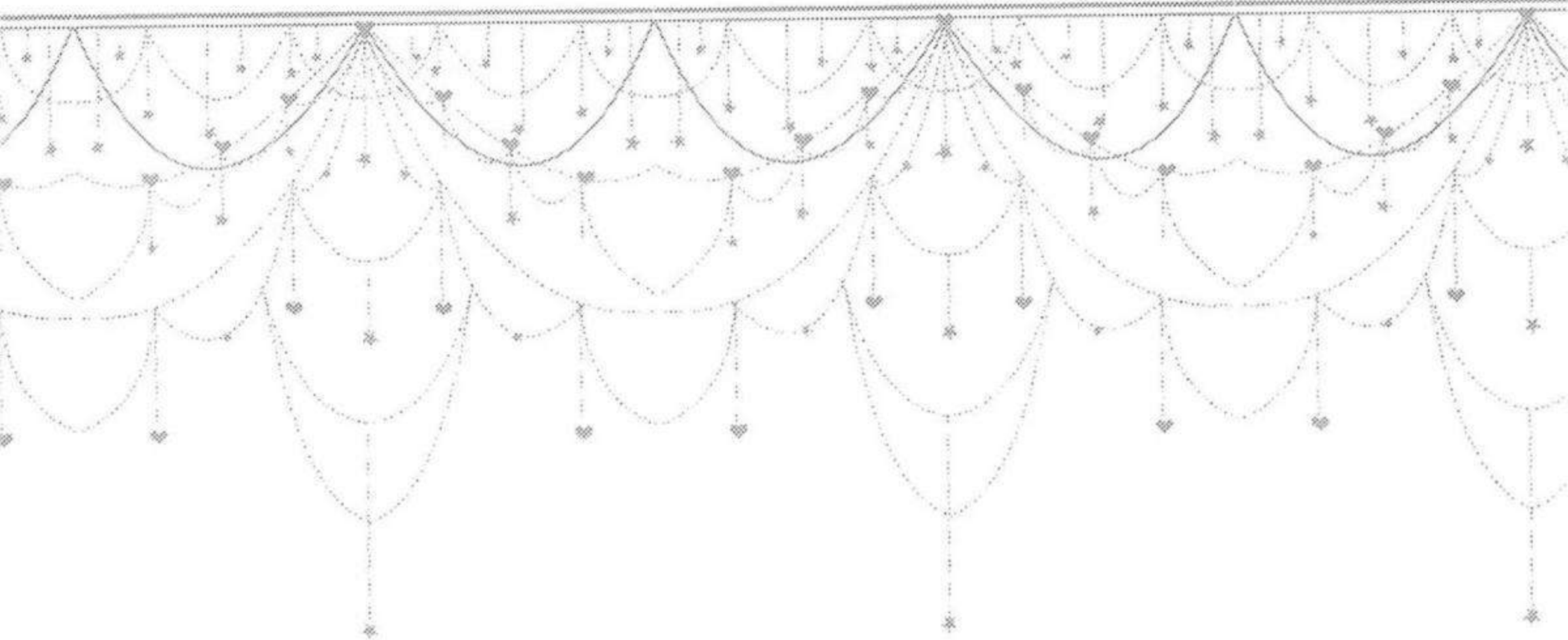
わは〜

やめっ…

やつ…おこっ…

ぎゅ





十めぐもりの元素あいそと一ぶ十  
著者 : 皐月すずらん  
発行 : はルいろ筆ペン  
URL : <http://haruiro.chu.jp/>  
mail : [seruran@haruiro.chu.jp](mailto:seruran@haruiro.chu.jp)  
twitter : seruran  
pixiv : 54867

印刷 : 大陽出版 さま  
発行日 : 2020年5月2日

ここまでお読みいただき有難うございますっ！

この本を最初に出したのが…えっと…3年前だ！  
それから随分経ったようなついこの間のような…

最初は少しだけ手を加えて再版しようかなと思ってたんですけど  
あっちも直したい、今だったらこの描き方をしたいかなあ、  
ここわかりにくいからこういう言い回しにして…  
ってというかキャロルちゃんを描いてる時間が至福なのでもうちょっとこの原稿にいさせて…  
とか言ってるうちに再版を名乗れないほどになってしまいましたとさ

それではまたお会いできたら嬉しいですー



十 ぬくもりの元素あいそとーぶ十

戦姫絶唱シンフォギアファンブック  
はるいろ筆ペン

